



	適切な介入および必要な看護技術について、確認し熟達を図る。 3. 課題（事例）解決に向けて、看護総合実習の実習計画書を立案する。 4. 看護総合実習の成果を基に、レポートを作成する。グループ間で発表を行い、意見交換し、看護総合実習における実践を考察する。
テキスト	指定なし。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書・ 教材／データ ベース・ 雑誌等の紹介	課題に応じて主体的に文献を探索する。必要があれば、担当教員が紹介する。
課題に対するフィード バックの方法	評価については、一連のプロセスにおいて演習に対する各自のテーマ設定や取り組み姿勢も含めて最終評価し、個別にフィードバックします。
学生へのメッセージ・ コメント	これまでの臨地実習・演習における看護実践を振り返り、必要な事項は学習しておくこと。 学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としています。自ら積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。 社会に出て活躍できる看護職者としての看護実践能力、人間力を養うために、自己の課題に向き合い、主体的な学習を期待します。